大阪市立大学　血液内科 造血細胞移植科

移植サポートチームNEWS

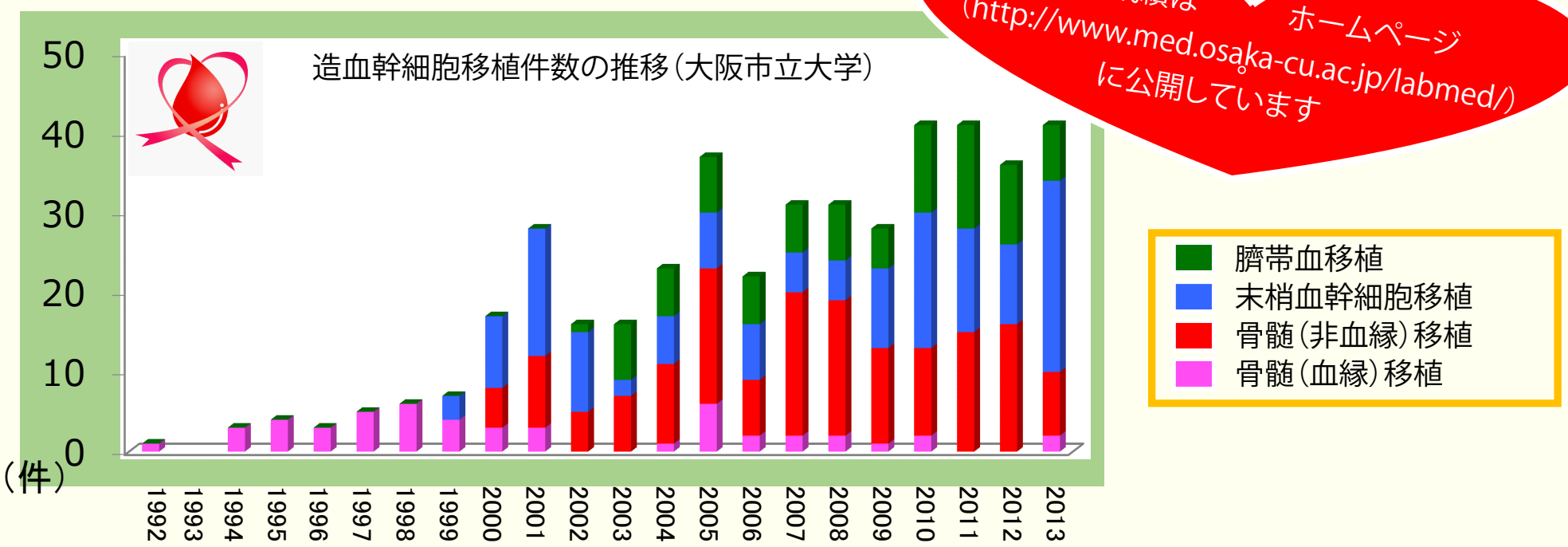
2014年秋季号
2014.9.26発行

造血幹細胞移植推進拠点病院に選ばれました

2013年、東京都立駒込病院、名古屋第一赤十字病院、大阪市立大学医学部附属病院が造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されました。移植拠点病院は、造血幹細胞移植に携わる専門的な医師や医療従事者を育成するための研修、専任の造血細胞移植コーディネーターによる移植医療関係者や関連機関との連絡調整でスムーズな移植の実施、骨髄採取までの期間短縮の支援、地域の医療機関の医療従事者とのカンファレンスや勉強会の開催、診療支援を行ない、すべての患者さんが、病気の種類や病状に応じて３種類の移植法（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）のうち適切な移植法を実施できる体制を整備することを目指します。

大阪市立大学医学部附属病院血液内科・造血細胞移植科は、1992年に最初の同種骨髄移植を行なって以来、2014年9月末までに468例の同種造血幹細胞移植（骨髄移植219例、末梢血幹細胞移植160例、臍帯血移植89例）を実施しています。最近では、移植後シクロホスファミド大量療法（post-CY）を用いたHLA半合致同種造血幹細胞移植（51例）にも取り組んでいます。また、非血縁ドナーからの採取を283件行っています。

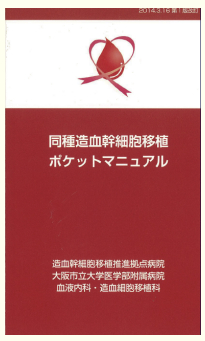
移植成績は（http://www.med.osaka-cu.ac.jp/labmed/）ホームページに公開しています



同種造血細胞移植は致死的な血液疾患に対して治癒をもたらす治療ですが、重篤な合併症や長期にわたる生活の質(QOL)の低下などもあり、以前は、患者さんも医療スタッフも“ど根性”でがんばる治療でした。

私たちは、医師、看護師、造血細胞移植コーディネーター、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、医学物理士、臨床検査技師、臨床工学士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種が協力し、それぞれの専門性を生かして「移植サポートチーム」として移植医療に関わっています。

また、同種造血幹細胞移植を受けた患者さんは、退院した後も様々な症状が現れることがありますので、患者さんの自己管理に役立てられるように、注意していただきたいことやアドバイスなどを記載した「移植患者手帳」を作製し、お渡ししています。内容はホームページからも見ることができます。



ポケットマニュアル作成しました

京都の病院から重症のVOD(SOS)患者さんが、治療のためにヘリコプターで搬送されてきました

セミナー開催、研修の受け入れを行っています。

医師4名、看護師3名、移植コーディネーター2名、管理栄養士1名が研修されています。

問い合わせ先：
isyokukyoten_ocu@yahoo.co.jp（日野）

私たちは、これからも同種造血幹細胞移植推進拠点病院として、患者さん・ドナーさんだけではなく、スタッフにとっても「質の高いやさしい移植」を目指します。